

## 令和5年度（第1回） 身近な教育委員会 実施概要

区民が身近に感じる教育委員会の実現に向けて、「身近な教育委員会」を下記のとおり実施しました。

### 記

- ・日時 令和5年5月26日（金） 18時30分～20時20分
- ・場所 教育支援センター研修室（本庁舎南館6階）
- ・概要
  - 第一部 第12回教育委員会  
報告事項「板橋区コミュニティ・スクール（iCS）の推進  
～「地域とともにある学校」をめざして～」
  - 第二部 参加者懇談会
    - グループディスカッション・発表
    - 内容要旨は次ページ以降のとおりです。
- ・参加者 85名
  - 内訳 保護者等 64名
  - 教育長・教育委員 4名
    - 中川修一教育長 高野佐紀子教育長職務代理者
    - 青木義男委員 野田義博委員
  - 教育委員会事務局関係者 15名
  - 学校長 2名



グループディスカッションの様子

・参加者懇談会<グループディスカッション>

テーマA：板橋区の子どもたちに、どんな大人になってほしいですか。

テーマB：そのために、学校と地域が連携して、どんなことができると思いますか。ご自身の立場でお考えください。

この二つのテーマに対して自分の考えを付せんに書き出し、グループ内で意見を共有した。

・各班からでた意見や考え（要旨）

【A班】

それぞれが書き出したことを意見交換しカテゴリー別になると、教育長がおっしゃった「板橋区のめざす人間像」に当てはまることを皆で確認しました。また子どもが育つためには、地域の下支えが必要であることを話し合いました。

**自立（自ら考え、判断し、行動できること）**

→自ら課題を設定し解決できる いろんなことにクリティカル思考を持ち探究できる子 など

**貢献（人のために、社会のためになることを進んですること）**

→相手の気持ちを思いやれる子 自分のためだけでなく他人のためにも動ける

ボランティア活動に参加 など

**共生（人の話に耳を傾け、力を合わせて課題解決する）**

→対話のできる人（相手の意見を取り入れて自分の意見を言える人） 気持ちを伝えられる子

きちんと挨拶ができ、コミュニケーションがとれる子 など

**創造（ゼロからイチをつくりだすこと）**

→ 0（ゼロ）から1を生み出せる子

◎上記の大人に育てるには地域が重要

町会など世代を超えたコミュニケーションが必要

学校と地域が連携して先輩や地域の大人たちの話を聞く機会をもつこと など

【B班】

テーマA：失敗を恐れず、何事にもチャレンジできる大人、思いやりを持った優しい大人に成長してほしいといった意見が大多数を占めていた。

テーマB：様々なことを体験できる場の提供や、多様な方とふれあう機会をつくるなど。

【C班】

<A:どんな大人になってほしいか>

- ・自分の考えをしっかりと伝えられる
- ・失敗を恐れずにチャレンジする
- ・自己肯定感をもてる
- ・夢に向かって全力を尽くす
- ・自分で判断し行動できる
- ・他者と協調しコミュニケーションを図れる

- ・人の話を聴き相手を受け入れられる
- ・板橋区を愛せる（地域愛や地元愛）

<B：そのために、学校と地域が連携して、どんなことができるか>

- ・プレゼン大会
- ・地域と協働した美化・環境活動（清掃や野菜作り等）や防災活動（防災デイキャンプ等）
- ・「子どもにもできることがある」ということを伝える活動や場を与える
- ・地域で褒める・認める・叱る
- ・子どもの話を傾聴する
- ・子どもが安心できる場所の提供
- ・子ども発で動ける活動
- ・地元企業等と連携するなど地域を知る活動

#### 【D班】（発表）

テーマA：「柱」「行動力」「思考（人間性）」の3つにグルーピングを行い、「柱」として、生きるための生活スキルがあることが前提となり、「行動力」として自分で考える力、あきらめない、チャレンジ精神がある子、「思考（人間性）」として思いやりの心、人の気持ちがわかる子、自分や人を認められる子などが挙げられた。

テーマB：「居場所づくり」「学び、成長」「見守り（地域の目）」の3つにグルーピングを行い、「居場所づくり」として、地域のイベント（町会のお祭り、地域防災訓練、美化活動など）、「学び、成長」として地域開放活動、学習支援ボランティア、キャリア教育の実施、「見守り（地域の目）」として地域の見守り活動、地域スポーツクラブ・学校間における連絡網作成による多人数における見守り活動などが挙げられた。

#### 【E班】（発表）

- ・住んでいるところに関心を持ち地域の中で活動できる大人になってほしい、区内に住み続けてくれれば板橋のことを好きに、また当然のように世界に出ていけば、それぞれの場所に軸足を置いて活躍してほしい。
- ・そのためには、人の役に立つ経験や楽しいイベントが基盤となり、優しさや思いやりの心を持ち、健康で明るく前向きで自信のある内面をコアに持つことで、がまんができる、人の気持ちがわかる、目標を見つけて行動するといった状態になっていく。
- ・学校、教員だけで体制が十分に取れない、学校だけで実現は困難であるから、iCS の仕組みを活用することが重要であり、CS が力をつけていく必要がある。

#### 【F班】

- ・自分の意見を相手にしっかりと伝えられる人になってほしい
- ・悩みも喜びも他人と分けられる人になってほしい
- ・好きをずっと続けていける人になってほしい
- ・大人になっても地域に残ってほしい
- ・郷土愛に満ちたひとになってほしい
- ・地域の活動に参加してもらおう

- ・街を知ってもらう
- ・アイデンティティをもってもらう

### 【G班】(発表)

- ・思いやりがあり、やさしく、挨拶ができ、頑張れる子どもを増やしたい
- ・板橋の歴史を学び、郷土愛を育んでもらいたい。
- ・地域を愛し、高齢者をいたわれる子どもとなってほしい。
- ・想像力豊かで、次を予測できる子どもが増えると良い
- ・自分で決断できる多様な大人を増やしたい
- ・気軽に参加できるイベントを実施したい(町会関係、お祭り等)
- ・地域行事に多くの子ども達に
- ・地域のサポーターを増やし、大人の経験を子どもに伝えたい。
- ・今の子ども達は経験不足、親が何でも口を出し過ぎてしまっている

### 【H班】

A **自立** (考えて行動できる・自分の思いを伝えられる・自分で決めて行動できる・体力をつけるなど)

⇒B (地域や保護者の仕事の紹介や楽しく仕事をしている姿を見せる・職業体験の機会をつくる・体験により達成できる喜びを感じてもらおうなど)

A **他者の尊重** (人に優しくできる・多様性や個性を認める・他者と協調できるなど)

⇒B (高齢者、幼児及び動物とのふれあいの機会をつくる・個々の特性を生かせる場面づくりなど)

A **地域** (地域に誇りを持てる・板橋が好きで、どこにいても故郷を思えるなど)

⇒B (地域の特色や歴史などを伝える・地域教材の作成・地域めぐりを一緒に行う・板橋の良さを実感できる活動など)

A **世界** (広い視野を持つ、平和について何ができるか考えられる人など)

⇒B (SDGS やプログラミング等の教育の推進・戦争についての学習など・道徳的なディスカッションする機会をつくるなど)

上記のようにグルーグ分けを行ったが、他のグループとも有機的につながっている部分もある。

### 【I班】(発表)

A: 将来どうなってほしいか。B: そのためにどういうことができるか、必要か。

自分を表現できる、変化に対応できる、

人の話を聞ける、個性を認める

努力する、挫折を乗り越えられる、

地元が好きな人、健全な人

助け合える、思いやりのある人

「思いやりのある人」が一番多い



地域のイベントを開く

地域の見守り

・挨拶をする

・警察との連携

・居場所づくり

特技を教えていく

自然などを学べる環境

## 教育長所感（要旨）

いつも子どもたち・学校のために多大なるご尽力いただきありがとうございます。

学校の役割とはなんでしょうか。私は二つのことをいつも言っています。一つは子どもたちが安心・安全に暮らせる居場所づくり、もう一つは自己実現ができるための確かな学力の定着・向上を図ることのできる学び舎づくり。この二つが学校の使命だと考えています。

これらは先生方が目を輝かせる業務内容です。ここに力を結集できれば結果として子どもたちに質の高い教育を提供できることにつながり、保護者や地域の皆様にご満足していただける学校になると思います。だからこそ勤務時間内にこれらに多くの時間をとってもらえるようにすることが教育委員会の喫緊の課題・使命です。そして校長・先生方の知恵の見せどころであり、保護者・地域の皆様のご協力の総和であると思っています。学校、保護者・地域、教育委員会の三者が共鳴してこそ、この実現が可能であると信じています。そのためのキーワードは「当事者意識」つまり主語をI（アイ）にすることです。学校に関わる全ての人が主語を一人称にすることが大切だと思います。子どもも学校があるから行くのではなく、子ども自身も自分が安心できるための居場所としての学校を創ること、保護者の皆様には子どもが学ぶ学校そして「どの子も我が子」という意識をもって、自分たちで支えるという意識を持っていただきたい。地域の方々には地域の宝である子どもたちが学ぶ学校を自分たちで守るという気持ちを持っていただきたい。

学校・先生はすべての子どもが差別・排除されず学びあう・成長しあう学校を創り上げる。それぞれが当事者意識をもって知恵と力を出し合い、ありとあらゆる手段を試みることで、様々な教育活動に変化が生まれ、先生方が本来の業務に専念でき、質の高い魅力ある学校が実現できると思っています。学校に様々なことが求められ、色々な課題がある中、地域の皆様の知恵・力が必要な時代になっていると強く感じています。思いもよらないコロナ感染症がありました。令和2年度から板橋区コミュニティ・スクール（iCS）を区内小中学校全校に導入しました。iCSによって先生だけでなく子ども・保護者・地域でも学校運営を担っていき、先生だけの指導から保護者・地域の皆様・各種関係者の知恵・経験を生かした教育活動を進めていくなど、学校だけ・先生だけの「だけ構造」から脱却を図ることできれば子どもたちにとって素敵な学校が創り上げられ、そこに关わる全ての方々にもやりがいを感じてもらえると思います。学校はあるのではなく、子ども・保護者・地域の皆様・教職員で創るものと考えています。iCSを通じて地域全体で子どもを育む環境を作り、子どもたちの明るく、元気で前向きな成長へとつないでいきたいと願っています。そのために学校にはCS委員を学校運営のパートナーと信頼し、学校のあらゆる事実を冷静に確実にお伝えし、できるだけ具体的な内容についてCS委員の知恵と力をお借りし、様々な問題解決に取り組んでいただきたい。そして、CS委員のご提案を実現し、必ずフィードバック、さらに協議を重ねブラッシュアップしていくことが重要と考えています。今日やっていたいただいた熟議ではいいアイデアがたくさん出ました。学校に還元したとき、学校はやってみてどうだったのかというフィードバックをiCSにしないとiCSは進歩発展していかなくなってしまいます。

結びになりますが、夜遅くに集まっていたいただき、熱い議論を重ねていただいたことに心から感謝いたします。今日は本当にありがとうございました。